

連載 登録医のご紹介

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

手術支援ロボットda Vinci Xi 導入

2020
Spring
No. 67

TOPICS

2019年度サービスクリエーション21発表会 開催
メンタルヘルスケア研修記念講演会 開催
ちやまちキャンサーフォーラム 講演
骨転移・骨粗鬆症の地域連携セミナー 開催
令和元年度 救急医療功労者表彰式典
大阪府医師会長表彰(個人)受賞
クリスマスコンサート開催
がんサロン パン作り

手術支援ロボット da Vinci Xi 導入



はじめに

医学の進歩に合わせて手術もより高度な技術が求められています。おなかの手術というと臓器を失うことによる後遺症以外にも「体表に大きな傷がついて痛いのでは?」「病巣以外の組織へのダメージは大丈夫だろうか」といった心配があるかと思われま。昨今では腹部手術の多くの術式が腹腔鏡手術に移行し、それらの問題はかなり解決されてきています。しかし、体腔内の奥まった部位や、重要な脈管・臓器が密集した箇所の病変に対しては、腹腔鏡分野の光学機器や鉗子では限界があります。

1999年に登場して以降、進化を重ねてきた医療用ロボットの最新機種が da Vinci Xi です。体内

に入るカメラと鉗子を患者サイドのロボットアームに取り付け、執刀医は少し離れたところに設置した操作用コクピットから3次元モニターを見ながら装置を動かします。執刀医の手の動きはロボットアームに伝わり、アーム先の鉗子が意図した方向に動いていきます。高精度3Dカメラによる立体的拡大画像により神経線維の一本一本が識別できるレベルまで組織を観察でき、病変を切り離すのに最適な部位を見極めることができます。手振れ補正機能付き多関節鉗子は人の手以上の可動範囲で繊細かつ正確に作動し、今まで腹腔鏡手術では操作困難であった場所でも適切な角度で届いて操作を加えることができます。

消化器外科領域におけるロボット支援手術 副院長・外科部長 川崎誠康

ロボット支援手術は、本邦の保険制度下では長らく前立腺癌と腎癌部分切除術に限られていましたが、2018年からは12術式が適応に加わり多くの癌腫が対象に含まれるようになりました。外科では現在、胃癌・直腸癌に da Vinci Xi によるロボット支援手術を行っております。

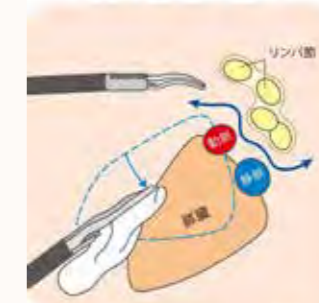
ロボットのメリットは、消化器外科手術では特に

食道胃接合部や骨盤腔など狭小なスペースで、かつ主要臓器や血管が密集した領域で大いに生かされます。たとえば胃癌手術では周囲リンパ節を十分に郭清することが必要ですが、従来の腹腔鏡手術では術野展開のために脾臓を押し下げるなどの操作を強いられていました。また直腸癌手術では周囲にある温存すべき自律神経や、前立腺・膀

といった出血しやすい臓器の傷害を防ぐことに苦勞していました。しかし、このロボット支援下手術によって、胃癌手術では脾液瘻の低減、直腸癌手術では排尿・性機能障害の予防が可能となります。

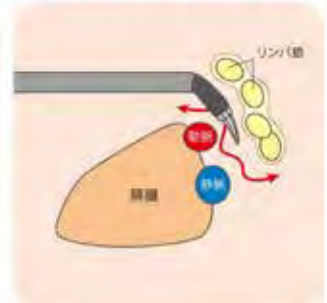
癌の手術では病巣をすべて取り除くことが最も重要ですが、同時に残すべき周囲の組織を傷つけないことも求められます。外科医の目・手をロボットが支援することで、根治性と安全性を高いレベルで両立した理想的な手術が可能になると期待されます。

通常の腹腔鏡手術



まっすぐな鉗子を用いるため、脾臓を動かしてリンパ節を切除

ダビンチによる手術



多関節アームによって、脾臓に極力触れずに切除

泌尿器科領域におけるロボット支援手術 副院長・泌尿器科部長 大町哲史

ロボット支援手術は、その拡大された視野で限られた骨盤内での深く狭いスペースにおける切開、切除、止血そして人間ではマネのできないような運針を、ロボット特有の関節の動きで可能としました。

本邦では、2012年4月に前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘出術が保険収載され、2016年4月に腎癌に対する腎部分切除術が保険収載されました。いち早く保険適応が取得できた前立腺全摘術では、できるだけ正常な尿道を温存することにより術後の尿失禁率を格段に減らし、症例によっては神経温存による勃起機能を保つことによって、QOL(生活の質)を高めることができます。さらに、正常な尿道と膀胱を吻合する際の運針についても、ロボット特有の正確で緻密な吻合術により、尿道バルーンを1週間以内に抜去できるため早期の退院が可能と

なりました。また、再発リスクの高い場合はリンパ節郭清を行います。短い時間で可能な限り多くのリンパ節を採取できるため、術後の追加治療を検討する大きな判断材料となっています。

今後、当院は腎部分切除術も行っていく予定ですが、部分切除を行っている間の動脈阻血時間が短くなる長所を生かして、腎機能の温存が期待されると同時に癌の再発や出血などの手術合併症が減る利点があります。



米粒をつまんでいるアーム先の鉗子

おわりに

ロボット支援手術は、自分自身でカメラを操作して見たい場所へスムーズにズームアップできるため、術者はストレスなく手術が進行できます。また、第3アームと呼ばれる鉗子を助手ではなく自分自身で動かすことによって、他の医師に指示することなく手術ができます。ただし、鉗子には触角がないため、組織に対する力のかかり具合などは、目で判断するしかありません。そのために、術者になるためには、決められたトレーニングを積み、認定された医師しか執刀できないルールになっています。

今後も、われわれは「がん拠点病院」として地域医療に貢献するために、安心して低侵襲手術を受けていただこうと考えています。



2019年度 サービスクリエーション21発表会



12月8日、ビッグ・アイにてSC（サービスクリエーション）21を開催しました。第一部の創立記念式は亀山理事長の挨拶で始まり、永年勤続者の表彰や、学術貢献表彰、さらにサービスの品質向上を目的としたベストサービス表彰が行われました。理事長は、現在の医療福祉の置かれている厳しい社会情勢を乗り越えるために、当法人で長年培われた知恵を出しあい、業務改善をしていくQC活動を大切にしましょうと話しました。

第二部では、法人内5施設から選出されたQC活動の発表が行われました。サンガーデン府中、ベルピアノ病院からはリハビリに関係した演題、阪南市民病院からはパートナーの待ち時間の短縮に対する取り組み、ベルランド総合病院から患者さんのプライバシーに配慮したデイサージェリー、府中病院は連携からの効率のよい検査予約のシステムなど、各施設において患者さんによりよい医療や福祉を提供するための取り組みが発表されました。ぜひ法人施設間で情報共有し、他の施設でも活用を検討していきたい内容でした。

今年の特別講演は、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏を招いて『チームマネジメント～今治からの挑戦～』というテーマでご講演いただきました。強い信念のもと“夢”を語り、“story”をつくるのがチームマネジメントにおいて最も大切なことであると熱く語り、そのためには情報を共有することが必要であると、これからの組織運営において非常に大切なヒントを数多く得ることができ、法人理念である『愛の医療と福祉の実現』をかなえる一助となる有益な講演でした。



ベストサービス職員表彰はサービスに対して悪いところだけに目を向けるのではなく、良い部分を褒め称えることによって、職員のモチベーションの向上、自主的改善、当事者意識の醸成を行い、サービスの品質向上を行う善循環につながる活動です

『ディズニー』のスタイルを学び、参考にしています

特別講演 講師
元サッカー日本代表監督
岡田 武史氏



当法人は、来年、第22回フォーラム「医療の改善活動」全国大会を主催します。このような医療の改善に取り組む当法人の姿勢が、他の医療法人福祉法人に評価された結果だと考えます。これからも業務改善によるサービスの質の向上を行い、安全で安心な医療の提供に向け、努力を続けてまいります。

SC21 プロジェクト 委員長
ベルランド総合病院 副院長 安 辰一

メンタルヘルスケア研修10周年記念講演会



ベルランド総合病院では、職員のメンタルケアに対応するために、亀山理事長が発起人となり、メンタルヘルスケアチームが誕生して10年になりました。その記念として、今回は長谷部圭司先生（弁護士・医師）をお迎えし、『職場においてハラスメントでトラブルにならないために～え？・・・これでパワハラなの？～』と題した講演会を開催致しました。

昨今、非常に話題となっているハラスメント問題をテーマに、法律の観点も踏まえて様々なお話が聴けました。セクハラとパワハラの法的定義の違いやマタハラの問題、どこまでが指導でどこからが許されないのか、熱心な指導とパワハラを表裏、被害者個人の感じ方で判断されるしかないということ、具体的な裁判事例を含めて紹介していただき、よりハラスメントを身近に実感させられる内容でした。

パワハラをみるとき、それは

- 職務に関係している事か無関係か
- 具体的な説明ができていないか感情的なのか
- 方法は合理的なのか不合理なのか
- 他者と平等であるのか不平等か

の4つの視点でみることを教えていただきました。普段のコミュニケーションで何気なくしていることがどういう意味をもつのかということをも改めて考えさせられました。加害者には理由をき



長谷部 圭司 先生
【医師・弁護士】

かずに事実をきくこと、周囲の人も影響を受け被害者へ無意識に否定感情を向けていることがあることなど、対応にも十分配慮することが大事であることも教えていただきました。

当日は、役職者を中心に192名の参加があり、医師、看護、コメディカルだけでなく様々な職種の方が参加しました。講演後の質疑応答も活発で、特に医師からは具体的な指導や法律的問題に対する質問がいくつもあり、日常におけるハラスメントへの関心の高さがうかがえました。メンタルヘルスケアチームでは、今後も話題となるメンタルヘルスのテーマを取り上げ、講演会や研修会を開催していきたいと考えています。

臨床心理室 室長補佐 溝口由里子

登録医のご紹介

ひらいクリニック 平井 昭彦 先生

乳腺外科・外科・リハビリテーション科

Q. 医師を目指したきっかけは？

亡父が和泉市にて開業医として働く姿をみていた為か、自然と自分も父のように医師として社会に貢献できたらと思うようになりました。

Q. 診察の際に心がけていることは？

乳腺外来は普段なじみのない診察のため、よりわかりやすい説明をするように心がけております。

Q. 地域医療について

乳腺疾患はもとより地域の皆さんがかかえられている疾患において病院へのかけ渡しをし、又受け皿となれるクリニックとしての役割を果たしたいと思っております。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

いつも治療に必要な乳がん患者さまへのスピーディな対応をしていただき大変感謝しております。

Q. 最後に一言お願いいたします

乳がん検診をはじめ身近に受診できるクリニックをめざしたいと考えます。よろしくお願い致します。



星座：乙女座 血液型 A型
趣味：ゴルフ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	●	●	●	/	●	●	/
13:30～16:00	※	👉	👉	/	👉	/	/
17:00～19:00	●	/	●	/	●	/	/

※👉は乳腺専用予約診療
※月曜の13:30～16:00はリンパ浮腫の診察と検査結果をお伝えする方の予約のみとなっております。

住所：大阪府堺市南区鴨谷台2丁目1番3号アクトビル1階
TEL：072-294-2010

新規登録医

登録医件数 413 件
2019.12.31 現在

西区	よしかわ健やかクリニック よしかわ のぶひこ 吉川 信彦 先生
河内長野市	西野テラー道クリニック にし の まさのり 西野 正紀 先生

医療従事者向け セミナー

3月7日(土)	第10回泉北地区認知症カンファランス (ベルランド総合病院 AIF ホール)
3月14日(土)	第8回泉北骨関節セミナー (ベルランド総合病院 AIF ホール)

お問い合わせ先

ベルランド総合病院 地域医療連携室
TEL：0120-13-9215 FAX：0120-53-0096

医療従事者の方は
どうぞお気軽にお越しください！

第23回 ベルランド地域医療懇話会

日時：2020年 2月 8日(土) 14:00～15:30
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール

当院診療科のご紹介

当院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科における診療
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 三上 慎司

がん口ヨモのニューフロンティア
～がんでも「動ける」「生活できる」ために～
リハビリテーション科 部長 大島 和也

～産科から他科の先生方に伝えたい～
妊産婦さんへの処方と説明のポイント
産婦人科 部長 大西 洋子

総合診療外来の概略と展望
総合診療外来 部長 丸山 克之

※当日は軽食をご用意しております。
※大阪府医師会生涯研修システムに登録予定しています。

Topics

2019年11月7日 『Diabetes Clinical Forum』を開催しました

一般演題

「当院におけるFGM(リプレプロ、フリースタイルリプレ)接着症例の検討」
ベルランド総合病院 内分泌・代謝科 医長 端 里香

特別講演

「GLP-1受容体作動薬の時代」
神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・総合内科学分野 総合内科学部門 准教授 坂口 一彦 先生



端 里香



坂口 一彦 先生

2019年11月9日 『南大阪骨粗鬆症ネットワーク研究会』を開催しました

一般演題

「当院のOLS「骨リボン(Re・Bone)運動」の取り組み
～追跡調査による骨粗鬆症治療の継続を目指して～」
西宮協立脳神経外科病院 医療福祉科 MSW/骨粗鬆症マネージャー 今田 美沙 先生

特別講演

「健康長寿に向けた骨粗鬆症治療～泉州地域における取り組み～」
永山病院 整形外科 骨粗しょう症センター 部長
りんくう永山病院 整形外科 部長 田中 雅博 先生



今田 美沙 先生



田中 雅博 先生

2019年12月18日 『免疫チェックポイント阻害剤の副作用マネジメントセミナー』を開催しました

一般演題

「アテゾリズマブ(テセントリク®)を使いこなすための第一歩」
大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科 吉波 哲大 先生

特別講演

「免疫チェックポイント阻害剤におけるirAEに対する多職種チームの取り組み
～看護師の立場から～」
はびきの医療センター 緩和ケア認定看護師 岩田 香 先生



吉波 哲大 先生



岩田 香 先生

泉北耳鼻咽喉科セミナー2019を開催しました

医療従事者向け

今年も泉北耳鼻咽喉科セミナーを開催し、近隣の耳鼻咽喉科の先生方をはじめ、多職種の方々に参加して頂きました。

一般演題では、耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副医長 中島が「当科における耳鼻咽喉科診療～新規抗アレルギー薬を含めて～」として、当科の直近の過去1年間における入院および手術症例について紹介いたしました。

特別講演では、奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 学内講師の山下 哲範先生に「診療ガイドラインに基づいた耳鳴治療の実践」についてお話頂きました。

耳鳴治療は他科の先生方のみでなく、耳鼻咽喉科医にとっても悩ましい疾患の一つです。山下先生は日頃耳鳴の研究や耳鳴専門外来に携わられており、診療ガイドラインを基とした患者さんへの説明や、診察方法・治療方法の選択などについて実践的な講演を頂き、最新の耳鳴診療について勉強させて頂きました。



奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科 学内講師
山下 哲範 先生



当科は奈良県立医科大学関連病院として、現在常勤医師4名体制、外来診療は非常勤医師をあわせ専門医7名体制で稼働しております。今後も信頼のおける地域の基幹病院となるべく精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副医長 中島 崇

人生 100 年時代を迎え、昔と今では生命予後が大きく異なります。生命予後の延長に伴い、機能予後が重要であり、「動ける」「生活できる」ケアが求められています。つまり、がん高齢社会、老々介護社会を迎え、「動ける」「生活できる」ことが喫緊の課題であり、「質の高い生活機能」の獲得が早期に求められています。

リハビリテーション科 部長
大島 和也

ちややまちキャンサーフォーラム (Webにて動画公開中)

令和元年 11 月 2 日に MBS 毎日放送本社で開催された「ちややまちキャンサーフォーラム」にて、「進化!! 再発転移乳がんの最新トピック」というセミナーセッションで「もっと知ってほしい『がんロコモ』～がんでも『動ける』って、幸せです!～」と題して講演し、ゲストとのトークセッションに登壇させて頂きました。

有志一同とともに出展させて頂いた「がんロコモ」ブースには、多くの患者さんやご家族、介護者様が来場くださり、過去最大級のキャンサーフォーラムとなりました。

「がんロコモ」というキーワードの認知度が高まり、がん治療と平行して、がんでも動けるケアが重要であることが広がってきていることを実感いたしました。また、講演やトークセッションでは、医療者間、医療者と患者間のコミュニケーションの重要性が話題となり、聴講いただいた方々から、前向きになれたとたくさんの笑顔頂きました。



「がんロコモ」とは・・・
がん患者さんに生じた運動器の障害による移動機能の低下

骨転移・骨粗鬆症の地域医療連携セミナー

令和元年 11 月 21 日に「骨転移・骨粗鬆症地域医療連携セミナー」が開催されました。第 1 部にて急性期病院、回復期病院、開業医の各立場から多職種の方々より、骨転移・骨粗鬆症診療のできることで、できないことをお話いただき、第 2 部で「骨転移・骨粗鬆症診療で『動ける』に目を向ける」と題して講演させて頂きました。67 名の多職種多診療科の方々にご参加いただいた今回のセミナーでは、医療機関ごとの役割を果たしながらも、ひとの人生には一貫した「トータルケア」が必要で、そのためには地域医療連携が欠かせず、ますますコミュニケーションを図り、洗練された医療連携プラットフォームを構築していく必要性を共有させて頂きました。



ベルビアノ病院
入退院支援室
主任 秋山 紘先生



ベルランド総合病院
理学療法室
主任 田中 暢一



ベルビアノ病院
整形外科
部長 佐竹 一彦先生



永山リウマチ整形外科
院長 永山 芳大先生



ベルランド総合病院
地域医療連携室
主任 安田 良子



ベルランド総合病院
リハビリテーション科
部長 大島 和也

骨転移や骨粗鬆症で痛みや骨折、麻痺を生じると「ロコモ」につながります。たとえ骨転移や骨粗鬆症があっても、日常生活を続ける方法があり、「動ける」という視点から、治療と日常生活、就労、社会参加などの両立が可能です。理想は病気の予防とケアですが、まずは除痛と移動能力の確保が必要で、医療、介護、福祉が手を取り合い、小さな変化を積み重ねることで達成できます。



令和元年度 救急医療功労者表彰式典
大阪府医師会長表彰（個人）受賞

この度、令和元年度救急医療功労者表彰式典にて「大阪府医師会長表彰（個人）」の荣誉に浴し、令和元年9月12日大阪府医師会館において大阪府医師会長より表彰状を頂きました。本年度は私と大阪市立総合医療センター産科部長の中本先生の2名が受賞となりました。表彰の理由は長年に渡り大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会 委員として活動し、ACLS大阪コースディレクターおよび災害・外傷初期診療研修会のインストラクターとして大阪府における二次救命処置の普及啓発および災害外傷診療技術の向上に大きく貢献したということでした。

ベルランド総合病院に赴任した2003年よりACLS大阪コースディレクターとして当院や他院での心肺蘇生法講習会の開催、医師会コースのコーディネーター、また大阪府医師会主催のDTLS (Disaster&Trauma Life Support) でのインストラクターとしての参加ならびに大阪府医師会より派遣された被災地（岩手県大槌町）での救護活動を行ってまいりました。いずれの活動も私一人ではとても継続して行うことは不可能であり、御協力いただいた当院の医師、救急の看護スタッフ、救急救命士のおかげと感謝しております。

今回の表彰に恥じないよう今後も一層努力し、地域医療の一助となるよう頑張りますので、皆様のご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



被災地での救護活動
(岩手県大槌町)

総合急病救急センター 急病救急部
部長 北岸 英樹

クリスマス
コンサートを
開催



入院患者さん、ご家族の方々を対象に、毎年恒例のクリスマスコンサートを開催いたしました。第15回目となるこの企画は、院内の様々な職種の主任がチームとなって企画・運営を行っています。今年も「患者さん・職員ともに、笑顔になることができる！」を目標に、病気や治療に向き合っておられる患者さん、ご家族の方々に少しでも楽しい時間をお過ごしいただけるように準備を進めてきました。

当日はボランティアの方々にもご協力をいただき、バルーンやクリスマスの装飾で華やかに会場設営をいたしました。患者さんが安全に会場までにお越しただけるよう、スタッフが ONE チームとなって集結し、移動のお手伝いをさせていただきました。たくさんのご協力のお陰で、60名を超える患者さん・ご家族の方々にご来場いただくことができました。

コンサートは、いつものように“はっぴいえんど音楽隊”による演奏です。「クリスマスソング」や懐かしの曲「鈴懸の道」、「ユー・アー・マイ・サンシャイン」など、ご来場いただいたみなさんも一緒に口ずさみ、手拍子をすることができる構成で、ヒット曲「パプリカ」では運営に携わった職員も参加してダンスを披露させていただきました。

満面の笑みで「よかったよ」と話される方や、感激のあまり涙ぐまれる患者さんの姿も印象的で、患者さん・ご家族の方々だけでなく、職員も笑顔にさせていただき楽しい時間を過ごすことができました。



「病は気から」とことわざにもあるように、病気や治療と向き合うためにも心が元気であることが大事です。心の元気の素になれるように職員のチームワークを発揮し、ゆき届くサービスの提供を目指してまいります。

ベルランド総合病院 合同主任会

がんサロン
パン作り



生地をスケッパーで
等分にしていきます
このくらいかな〜



ハムを巻いて
くるくる
美味しくな〜れ



12月15日(日)のがんサロンにて『パン作り』を行いました。今回はパニーニとハムちぎりパン、どら焼きを作りました。気温が下がり、乾燥しがちな12月に開催するため、生地が上手く発酵するかどうかという不安を抱えながらの当日でしたが、参加者の皆さんと協力して作ったパンは今年も大成功でした。飛び入り参加された入院中の患者さんや院内スタッフにも美味しいとお褒めの言葉を頂きました。

がんサロンでのパン作りも今年で4回目の開催です。1回目のパン作りの時と比べると参加者の皆さんも準備に時間を要さなくなり、作り方を伝えると役割分担が自然と行われ、テキパキとした動きでパンが出来あがっていきました。毎年、法人本部より小島由記子主任(Bread Room 師範)が講師をつとめています。作り方や時間の限りがある中で、指示を受けながら試行錯誤を繰り返して取り組んでいます。好評のパン作りは今後も開催していく予定ですので、短時間で簡単に作れるレシピを来年に向けて研究していきます。

また、当院のがんサロンは今年で10周年を迎えました。10月には10周年行事を行い、これまでの活動の歩みを振り返りながら、がんサロンの役割や意味を参加者の皆さんと再確認する時間を過ごしました。2人に1人ががんになる時代、同じ気持ちで同じように治療に励む仲間の実感を、支え合える“癒しの場所”として、これからもがんサロンの継続を支援していきたいと思えます。

医療福祉相談室 佐光 結衣